

あなたもお読みください
 真実つたえ希望はこぶ
 しんぶん 赤旗
 日刊 1カ月 3,497円
 日曜版1カ月 823円

手良民報

生活相談はお気軽に
 電話 78-0943 (高橋)
 08051428896 (大場美広)
 (毎月赤旗読者に配達)
 (民報のみは月100円)
 発行 日本共産党・手良支部

2組が花束贈る

第6回てらコン

田舎で開くスポーツ合コンと銘打って6回目の「てらコン」が10月24日に行われました。手良地区を元気にしよう、活性化しようということで、新しい出会いの場としてパートナー探しをお手伝いするイベントとして手良地区活性化促進会議企画委員会が計画したもので、男性15人、女性14名が参加しました。手良地区の参加者は数名でした。

最初は手良小学校の体育館でみんなでトリムバレーをなごやました。手良地区の参加者は数名でした。

花束の贈呈があり、付き合いを始めたと思われれます。今までに結ばれた人は数組はあるのではといわれています。



花束の贈呈がありました。

よしひろ通信

(21)

「原爆が落とされた時、日本に貴い命など無かった」

十一月七日、長野県教職員組合主催の研究集会で、詩人で絵本作家でもあるアサービナーさんの講演を聴くことができました。演題は「なにを勉強したら生きのこれるのか」と刺激的なもの。

米国の大学で日本語に興味を持ち、日本に暮らして二十五年、まず、第一次イラク戦争の時、自衛隊派兵は憲法違反になるという議論を聞いて、日本ではまだ憲法が現実には生きていないことに驚きを感じ、自身を忘れていたアメリカ合衆国憲法について学び直したそうです。

同憲法では宣戦布告に議会の承認を必要としているが、先の大戦で当時の日本への宣戦布告をしたのが最後で、大戦後、そ

最後に告白タイムがありお目当ての人に男性より女性に花束を贈呈します。この日は2組の

これまでの「戦争省」は「国防省」に名称を改め、「朝鮮動乱」など、米国が世界中で続けている侵略と殺戮を「戦争ではない」と、宣戦布告もせず、議会の承認を得ず進めて来た事を知ったそうです。

憲法の条文そのものを覚えるのはハードルが高いので巧みに実態を変えてしまおうやり方でアメリカ合衆国憲法は一九四七年に「ミイラ」にされてしまったそうです。

そして、今、日本でも「戦争」準備を「平和安全保障」と言い換え、七十年前の米国と全く同じ事が行われていると語りました。

最後に、自著の写真詩集『さかしています』を紹介しました。被爆者の遺品などの写真に、その遺品の声なき声を詩にしてあります。中の一つ、広島で被爆して亡くなった少年タツヤくんがかぶっていた帽子の写真に添えられた詩の一節「なにを勉強したら タツヤくんはいきの

最後に、自著の写真詩集『さかしています』を紹介しました。被爆者の遺品などの写真に、その遺品の声なき声を詩にしてあります。中の一つ、広島で被爆して亡くなった少年タツヤくんがかぶっていた帽子の写真に添えられた詩の一節「なにを勉強したら タツヤくんはいきの



大場美広

来年1月オープン 長谷溝口の宅幼老所

上伊那医療生協では来年1月オープンで長谷溝口へ伊那市の補助事業での宅幼老所建設の計画を進めています。

長谷地域は伊那市でも高齢化率が高くなる地域であり、また伊那市の東部地域は上伊那医療生協の介護施設等がないこともあり計画されたものです。

市の要綱により民家を改修して施設を設置します。

上伊那医療生協は、上伊那生協病院、老人保健施設はびろの里、生協総合ケアセンターいな(伊那市狐島)、生協総合ケア

センターいいじま等の施設を備え、医療と介護のネットワークを広げて上伊那地域の医療・介護を支えています。

長谷溝口につくる宅幼老所は「生協総合ケアセンターいな」とともに上伊那医療生協のネットワークと提携し、伊那東部地区の在宅介護支援を担い、お一人おひとりの多様なニーズをしっかりとサポートします。

サービスの内容は通所介護・介護予防通所介護は定員10名、その他生活機能訓練、食事サービス、入浴サービス、送迎サービス、健康チェックなどを行います。

上伊那医療生協手良支部では手良からも自動車です15分位の近くの位置になるので地域のみなさんの理解と協力をお願いしています。

小野宿本陣など見学 四葉のつどい

手良公民館主催の「四葉のつどい」は10月27日に行われ、会員10名が参加しました(登録会員15名)。

この日は南箕輪村北殿にある「お四国様」、辰野町横川の蛇石を見学し、「かやぶきの館」で昼食をとり、午後は小野宿本陣を見学しました。

「お四国様」は手良の蟹沢にもありますが、北殿のここは平地の林の中にありました。かやぶきの館は現在問題になっているPPPと同じように農産物の自由化の交渉によるウルグアイ・ラウンド合意の影響を緩和するために、細川内閣によるウルグアイラウ

10月24日に、「新しい出会いの場」てらコン」が今年も行われた。今回で6回目となる。今までの取り組みの中で何組かのカップルが誕生しているようである。「継続は力なり」である▼これは手良地区活性化促進会議企画委員会の皆さんが中心になって行っているイベントである。自主的な組織が継続して取り組んでいるのはこれらでは珍しい。というのはそれが簡単なことではないからだ▼企画委員の皆さんは「縁の下力持」として見えないところで大変である。今の時代のニーズにあった企画の細やかな準備も大変であるし、今とき、若い人たちに集まってもらうのも大変なことである。企画委員のみなさんの努力に敬意を表するとともに感謝をしたいと思います▼過日は手良でものろしを揚げるということで企画委員の皆さんと同行したが、皆それぞれに独自の技能を持って一生懸命に取り組んでいるのを見て意を強くした▼「てらコン」開催の意義はほかにもあるということと話を聞いた。「てらコン」で手良へ見えた人が手良の良さを知って、将来手良に住むようになりたいのであれば手良の人口も増えるし地域の活性化にもつながるというところがある▼インターネットなどで手良を知り、来て観て帰るも良いということを手良に移住し地域の人たちと結びついて暮らしている人たちも少なくない▼とにかく企画委員のみなさんには感謝である。大変であるが今後も地域の活性化のために取り組んでいただきたい。

てらコン

10月24日に、「新しい出会いの場」てらコン」が今年も行われた。今回で6回目となる。今までの取り組みの中で何組かのカップルが誕生しているようである。「継続は力なり」である▼これは手良地区活性化促進会議企画委員会の皆さんが中心になって行っているイベントである。自主的な組織が継続して取り組んでいるのはこれらでは珍しい。というのはそれが簡単なことではないからだ▼企画委員の皆さんは「縁の下力持」として見えないところで大変である。今の時代のニーズにあった企画の細やかな準備も大変であるし、今とき、若い人たちに集まってもらうのも大変なことである。企画委員のみなさんの努力に敬意を表するとともに感謝をしたいと思います▼過日は手良でものろしを揚げるということで企画委員の皆さんと同行したが、皆それぞれに独自の技能を持って一生懸命に取り組んでいるのを見て意を強くした▼「てらコン」開催の意義はほかにもあるということと話を聞いた。「てらコン」で手良へ見えた人が手良の良さを知って、将来手良に住むようになりたいのであれば手良の人口も増えるし地域の活性化にもつながるというところがある▼インターネットなどで手良を知り、来て観て帰るも良いということを手良に移住し地域の人たちと結びついて暮らしている人たちも少なくない▼とにかく企画委員のみなさんには感謝である。大変であるが今後も地域の活性化のために取り組んでいただきたい。

(T)

満蒙開拓団を考える

③

二 満州国の現実

明治以降、日本人は新たな新天地を求めて、ハワイやブラジルなど海外へ渡っていく人びとも増えていきました。

移民です。満蒙開拓団も移民の形をとっていますが、ハワイやブラジルへの移民とは本質的に違うところがあります。

それは満蒙開拓団は満州事変以降おし進められた植民地政策の一環であるということ

です。日本側は満州の住民の土地を安く買いたたいたり、時には殆ど暴力的に住民を追い出して、その跡へ開拓団の村を作っていました。

土地を無くした住民を農業労働者として使用するケースも多くありました。ハワイやブラジル移民の場合、はじめは現地の農園やコーヒー園の安価な労働者として雇われて働きました。この点を「移民」

という言葉でひとくくりにするのは間違いだと思います。

満州国は「五族協和」（日本人、朝鮮人、漢民族、満州人、モンゴル人）によって満州在住の諸民族が協調し、「王道楽土」（平和な理想郷）を実現するという宣伝をしましたが、満州の民衆の抵抗は止みませんでした。

その中で起きた平頂山（へいちょうさん）事件について触れておきたいと思えます。

1932年9月16日未明、銃や槍あるいは太刀で武装した総勢2000人の反日集団が新京（現在の長春）の南西約230キロの撫（ぶ）順（じゅん）炭鉱の日本側炭鉱事務所や社宅を次々と襲いました。

日本人11人が死傷。関東軍守備隊や警官隊がこれと応戦。16日午前11時頃、関東軍は現地の炭鉱労働者が住む平頂山村住民を「武装集団を見逃した」という理由で、全員を崖下に集めたあと機関

銃の一斉射撃を浴びせました。こうして武装集団とは関係の無かった村民3000人が虐殺されたのです。この虐殺現場には、現在平頂山殉難同胞遺骨館が建てられ、折り重なったままの人骨が保存されていると聞いています。

このような反日武装集団は30万人に達し、満州国建国当初は日本人農民が入植できる状況では到底ありませんでした。

この文章では、満州の住民（漢、満、朝鮮、モンゴル等）を一括して中国人と呼ぶことにします。ちなみに、満州人というのは、古来中国東北部から沿海州にかけて勢力を伸ばした半農半狩猟（ツングース系とい

います）の女真（じょしん）族で、17世紀半ばには全中国を支配するに至りました。これが270年ほど続いた清朝（新帝国）です。（つづ）

北原 明

生活雑記

140

曾孫の誕生

小松利江

お母さん、今朝、孫が無事に生まれたよ。安心してね。こんなメールが届いた。娘の嬉しそうな、おばあさんぶりが可笑しかった。

そうか、娘の孫は私にとって曾孫かい、何だか不思議だなあ、人生という階段を大きくまた一段登ったような気が

医療生協の健康チェックも JA手良支所祭

JA上伊那手良支所祭が10月31日に行われ、さわやかな秋晴れの天気に恵まれ大勢の参加者で賑わいました。

上伊那医療生協手良支部は今年も営農経済課の部屋の一角を借りて街角健康チェックを行いました。

健康チェックの内容は血圧測定、骨密度測定、体脂肪・内臓脂肪測定などでした。

体内年齢等がすぐわかるので受診者は「まだ若いよ」と言われて喜んでいました。

毎年やっているのになじみの人も多く40人が受検しました。上伊那医療生協の専門職員も参加して検査の結果をわかりやすく助言をしました。

支所祭は舞台では手良小学校2年生の和太鼓演奏、手良保育園長組の運動会にやった「恋のダイヤル6700」のダンス

など元気な発表しました。また、「まめまめくらぶ」の皆さんによるフリーマーケット、黒豆茶の接待、昔なつかしいお手玉遊びもありました。毎年大好評の福入り餅投げも大いに盛り上がりました。

食卓・テント村ではうどん・そばなどが販売され、参加者には収穫感謝サービスの豚汁も提供されました。



ずつと若い年齢だったのに大いには、複雑な思いで戸惑いを感ずいた。長女が生まれた時、姑はおばあさんと呼ばせなさいとくれとたしなめられた事を思い出した。その時は生意気なおばあさんだなあとお腹が立ったけど3歳だったから、まだまだ若いと思っていた事が今なら良くなるわ。ひいばあさんは73歳で、曾孫を抱いた。私よりずっと生まれても抱かしてもらえない



2年生の和太鼓演奏

行く秋を惜しみて

野草教室

手良公民館の今年度最後の第4回野草教室は10月30日に行われ17名が参加しました。今回は柄山祐希先生を講師に「行く秋を惜しみて」と銘打って伊那市役所、信州大学農学部、箕輪南小学校を廻り菅野高原で昼食でした。

伊那市役所ではナイスロードの桂の並木、市役所の庭に植えられている市の花―桜と市の木―楓

中坪公民館で絵手紙教室やっています



小松栄子

連絡先 高橋 7810943

を見て学習しました。信州大学農学部ではよく知られているゆりの木の並木がきれいに紅葉していました。構内にある「食と緑の科学資料館「ゆりの木」を見学しました。館内には動植物の標本や写真など数万点を展示しており、子どもでも自由に見学出来るようです。

箕輪南小学校では講師の柄山先生がよく詠う歌人の藤沢古美は彫刻家でもあり、その作品「張立」が校舎の入口に立っており見学しました。菅野高原では付近を散策して先生から話をききました。よそから移植したシラネアオイは鹿に食べられてもうありませんでした。先生は「カルチャーパーク」よりの「ネーチャーパーク」だねとよくいわれましたが、自

然が人間の都合で壊されていくのを心配しているようでした。

俳句 月光 酒井要子

花終り庭に差しゆる月の光(かげ) 雪解けて椿の葉脈しずくもつ 白さが青田の上を悠と舞う 夕空に映えて鮮やかさくら咲く 我が庭の樹水の見えろ春浅し



満蒙開拓平和記念館を見学して

11月13日に「まめまめくらぶ」の日帰り研修会があり、会員と会員以外の希望者の計24名で満蒙開拓平和記念館を見学しました。

この記念館は今伝えなければならぬ満蒙開拓の歴史、平和への願いをテーマに2013年4月に建てられました。かつて日本から約27万人の農業移民が「満州国」へ渡って行った「満蒙開拓団」の戦争による苦難の歴史を風化させることなく後世に伝えるため、その拠点として記念館を作ったものです。

入場者は今年4月の時点で6万人余となりその関心の高さは驚く程です。今回見学の機会に恵まれて、いろいろと考えさせられましたが、それぞれ重く感じたことを今後、子・孫の世代に平和と話し合いが出来ていくと良いと思えました。

昼食もおいしくいただき、飯島の「道の駅」での買い物も楽しく出来ました。(K)



箕輪南小学校の「張立」

(おねがい) 身近な出来事を、早く皆さんにお伝えしたいと思えます。何かありましたら左記まで連絡をお願いします。 七八一〇九四三 高橋